

若者のクルマ離れ

かつては、「マイカー」を所有するのがステータスのひとつだったが、今は、「本当に必要なものではないから要らない」という若者が多い。ゴルフの「足」がなくなること、ゴルフ離れが加速した面は否めない

“働き方改革”

残業時間の短縮、定時就業の推進によって、就業時間外でのビジネス交流の機会は、どんどん減っている。かつてはこの会社でもやっていた、週末の「接待ゴルフ」も、一時は「絶滅」が危惧されるほど減少した



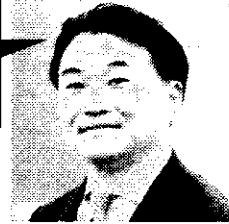
欧米型経営への急激なシフト

バブル崩壊後、終身雇用、年功序列の日本型経営は「悪者」扱いされ、欧米型の成果主義、実力主義経営への急激なシフトが起こった。その過程で、「飲みニケーション」や、「接待ゴルフ」は、死語となっていった



若手社員がゴルフをしなくなった理由

始めよう！



解説: 富田賢氏

米国系銀行を経て、独立系ベンチャーキャピタルの創業に参画し、多くのベンチャーに投資し上場へと導く。株式会社ティーシーコンサルティング代表取締役。立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授

HAPPY 2019 YEAR

青年たちよ

ビジネスにも役立ち、人生も豊かになる

若者のゴルフ離れは、ゴルフ界が抱える大きな課題のひとつ。そこでビジネスの専門家から先輩ゴルファー、メンタルのプロまでさまざまな意見、アドバイスを集めてみた。これらを説得材料にすれば、きっと若者もゴルフに興味を持ってくれるはず！

かつてゴルフは、ビジネスマンにとって不可欠な「嗜み」のひとつであったが、今の20代、30代のビジネスマンには、おそらくもうこの概念はない。せっかくの週末休みを返上しての接待ゴルフ

のサポートなどを行う「ティーシーコンサルティング」の代表取締役社長、富田賢氏だ。主な理由は2つある。ひとつは、バブル崩壊後、批判・否定され続けてきた日本型の「家族的」経営が、徐

バブル崩壊後、若者がゴルフをしにくい社会になっていった

に見直されてきていること。もうひとつは、長く続いた不況から脱し、好調な業績を上げている中小企業が確実に増えていることだ。「バブル崩壊を境に、日本はそれまでの終身雇用を前提とした年功序列型の日本の経営から、欧米型の成果主義経営に急激に舵を切りました。それによって社員の会社への帰属意識が希薄になり、社員同士のコミュニケーション不足は加速しました。その反動というわけでもないですが、現在、「マ

「ゴルフが社外的にも社内的にも通用する、優れたコミュニケーションツールである」というのは昔から変わらぬ事実です。ITをはじめ、業績のいい中小企業の経営者たちが目をつけるのは、むしろ当然と言えるでしょう」(富田氏)

武士が乗馬や茶道を学ぶのと同じだ！

「『ゴルフ』と『英語』は大人の嗜み。上達に時間が掛かるから早く始めるべき」

(富田氏)

若者が今こそゴルフを始めるべき理由について、富田氏は、「ビジネスというものは、人と『会う』ことからスタートします。比較的新しい会社の経営者や社員は、ビジネス交流会などに積極的に参加して、人脈を増やす努力をしています。ゴルフというものは、それに匹敵する『出会うの場』でもありません。通常の手段では、アポイントメントを取らないと会うのが叶わない相手とも、ゴルフ(コンベンション)でなら交流できる可能性はあります。しかもビジネスミーティングであれば、30分も時間を割いてもらえばいいのですが、ゴルフならほぼ半日の間、

相手と一緒の時間を過ごすので、途中でビジネスの話も持ち出しやすいというわけです」という。富田氏によるとゴルフのビジネス上のメリットは、①新しい人と会える、②知っている人とのリレ

① ション(関係性)を維持できる、② 通常のビジネスルートでは会えない人にアクセスできる、③ 人とつぎ合い方のコツを学べる、④ 健康維持に役立つ、⑤ メンタルコントロールを学べるなど。とくに

①は、社員研修や企業セミナーを行うよりも手っ取り早く、社員の成長を促す可能性が高い。「ゴルフでは、プレー以外の場面で、人への『気配り力』が強化されます。あるいは、コンペの幹事を任せられたりすると、組み合わせや当日のスケジュール、遅れた人への対応など、ビジネスシーンでも応用できる、調整能

人と出会うことはビジネスの基本。企業コンベンションに参加することで、同様に人脈作りができ、初対面でも「ゴルフ」という共通言語でより密接に交流できる

新しい人と出会う

知人・仲間とのリレーション維持

ゴルフで知り合った人脈は、ゴルフを通じて長く続くことが多い。ビジネスだけの交流より、関係性が濃密になり、仮にビジネス上のトラブルが起きても、丸く収まるケースもある

ゴルフをやるビジネス上のメリット

企業の経営者は多忙で、面会の約束を取り付けることすら難しいケースが多い。「今度、ゴルフでも」という誘いに対しては、意外に乗ってくれることも少なくない

普段なら会えない人にもアクセスできる

人づき合いのコツを学べる

ラウンド中は、同伴競技者にも気を配らなくては、円滑にプレーは進まないが、それが人づき合いの訓練になる。自分だけのプレーに没頭するようでは、ビジネスでも成功しない

適度な運動で健康になる

現代人は、とかく運動不足になりがちだが、ゴルフは気づかないうちに、かなりの距離を歩くので(なるべくカートに乗らないようにすることが必要)、健康維持の一助になる

メンタルコントロールの訓練になる

ゴルフでいいスコアを出そうと思えば、メンタル面のコントロールは必須。1打ごとの結果に一喜一憂しないメンタルは、ビジネスの場面でも必ず役立つスキルとなる

力が身につきます」と、富田氏。そんなゴルフ最大の弱点は、始めたからといってすぐに他の人とプレーするといわわけにはいかないこと。だからこそ、「若いうちに」始めることが大事なのだ。「例えば、『英語』は、現代のビジネスパーソンに必須のスキルと考えられています。が、仕事で英語を使うかどうかは、実際にはわかりません。しかし、そういう場

人とのつながりが薄くなりやすいが、IT企業は取り入れている

IT技術をビジネスチャンスに結び付けるには、実は人とのつながりが何よりも大事。そのことに気づいているIT系企業の経営者たちは、ゴルフのコミュニケーションツールとしての可能性に、大いに期待している



「就職にも有利でソーシャルスキルも学べます！」

桐林宏光プロ

スポーツ心理学やメンタルトレーニングに詳しい桐林宏光プロに若者のゴルフについて聞いてみた。「日本女子大のゴルフ部を見ていたとき、部員の多くが早い時期に就職を決めていました。学生時代からゴルフの嗜みがあると就職には有利なんです。ゴルフは人とのコミュニケーション、先輩や目上の人との接し方など、社会におけるソーシャルスキルが自然と学べるものです。現在はスマホ時代と言われ、人とのつながりが希薄だったり、対話不足なども危惧されています。そんななかで初対面の人ともコミュニケーションが取れる能力は、逆に貴重な人材となるはず。ゴルフは個人競技ですが、4人1組でプレーするものです。つまり仲間が作れるわけです。これがゴルフ最大のメリット。反対に最大のペナルティは、誰からも誘われないこと。ゴルフをすることで魅力的な「人間力」も育まれる。だからこそ、若いときからゴルフを始めておくべきなのです」



日本女子大ゴルフ部の生徒たち。仲間が作れることがゴルフ最大のメリット

面がきたら、対処できるようにしておくのが大事だということ。ゴルフも同じで、今すぐ、ビジネス上の必要がなくても、習得しておけば、必要に迫られたときに、いつでもツールとして活用できるといふことなのです(富田氏)。昔なら先輩ゴルファーが技術指導もしたものが、これは上達の面では効率が悪い。できれば最初からプロに習って、速やかな上達を図るのが若手好みのスマートな手法だろう。クラブの価格やプレーの面では、かつてないほどハードルが下がっている今こそ、ゴルフを始めない手はないのである。

練習場のおじさんゴルファーからのメッセージ

「若者よ、ゴルフをやれば、仲間が増えて、仕事も広がる、そしてなにより楽しいぞ！」

ゴルフは個人競技でありながら、ひとりではプレーできず、同伴競技者のコミュニケーションがプレー時間の大半を占めるスポーツ。現在の競技人口を支えているのは、50、70代の「おじさん世代」だが、仮に、このまま若者のゴルフ参入が少なくなるとすると、将来的には4人のパティを集めることすら、今以上に難しくなることは確実だ。そこで、おじさん世代のゴルファーに、「若者にゴルフをすすめる理由」というテーマで、緊急アンケートを行った。その結果は別表の通り。「人とのつながりが広がる」や「マナーや気遣いが学べる」というのは、よく言われるゴルフのメリットだが、長年プレーし続けてきたなかでの、実感のこもった言葉には、やはり説得力がある。また、「若手ゴルファー」からも、

「取引先の社長と親しくなれたのがゴルフで、仕事の幅が広がり、



緊急アンケートは24時間営業、都内最大級の規模を誇る「トーキョージャンボ」で実施

「社会人としてのマナーが身につく」
黒山達治さん (72歳・ゴルフ歴28年)
ゴルフは誰でも仲良くなれるのが魅力ですが、プレー中のマナーや相手への気遣いなどを自然に学べるのがいい。社会人として役立つ必須のマナーでしょう

「先輩の助言が大正解。ゴルフで仲間が増えた」
佐久間忠徳さん (52歳・ゴルフ歴21年)
先輩からゴルフはやっておくべきだと助言され始めましたが、そのおかげで仲間が増えました。今ではグリップの仕事をすることで、すぐに会話が始まります

「ゴルフのおかげで転職も上手くいった」
佐藤和樹さん (44歳・ゴルフ歴7年)
「芸は身を助ける」という父の教えがあり、ゴルフを始めましたが、そのおかげで転職も上手くいった。ゴルフは人とのつながりを広げるための「芸」なんです

「先輩の助言が大正解。ゴルフで仲間が増えた」
佐久間忠徳さん (52歳・ゴルフ歴21年)
先輩からゴルフはやっておくべきだと助言され始めましたが、そのおかげで仲間が増えました。今ではグリップの仕事をすることで、すぐに会話が始まります

「ゴルフのおかげで転職も上手くいった」
佐藤和樹さん (44歳・ゴルフ歴7年)
「芸は身を助ける」という父の教えがあり、ゴルフを始めましたが、そのおかげで転職も上手くいった。ゴルフは人とのつながりを広げるための「芸」なんです

「歳を取っても夢中になれるのがゴルフ」
安藤博紀さん (43歳・ゴルフ歴2年)
いまゴルフにハマっています。40代から始めても学生時代のように夢中になれるのはゴルフの大きな魅力。体力に関係なく、歳を重ねても楽しめるのがいい

NSでゴルフの魅力を発信していますが、そこから仲間が増えることもあります。世代に関係なく、みんな一緒に同じフィールドで楽しめるからこそ、人とのつながりが生まれやすいと思う」（藤木紀人さん・39歳）といった意見に、ゴルフというスポーツの本質が凝縮していると言えるだろう。

「取引先と仲良くなれた仕事も広がった」
瀬尾隆二さん (34歳・ゴルフ歴8年)
ゴルフがきっかけで取引先の社長と親しくなれ、仕事の幅が広がりました。ゴルフのおかげで、飲み会に誘ってもらえたり、可愛がってもらえています

「相手への気遣いは仕事にも生かされる」
齊藤勝久さん (68歳・ゴルフ歴40年)
ゴルフはひとりでプレーできません。相手と一緒に楽しむものなので最低限のマナーは必須。相手のペースを乱さない、そんな気遣いが仕事に生かされています

「ゴルフのおかげで会話がスムーズに」
鈴木康昭さん (40歳・ゴルフ歴15年)
会社の上司と仲良くなれました。コミュニケーション能力も高まります。ゴルフの話題があるだけで、会話が弾み、スムーズに話せる気がします

「SNSを利用すればゴルフ仲間がどんどん増える」
コンペの達人・中村勲さん
プライベートコンペを10年以上企画している中村勲さんは、「SNSを利用してコンペを企画していますが、年々参加者は増加しています。ゴルフは友達の友達など、人とのつながりが広がりやすく、大勢で楽しめるのが魅力」



「あらゆる世代と一緒に楽しめる」
川畑武史さん (49歳・ゴルフ歴7年)
とにかく楽しい。あらゆる世代と一緒にプレーできるのは、ほかのスポーツにはないでしょ。父親とゴルフできるのが最高ですし、3世代ゴルフもできそうです

百発百中!
100ヤード
この距離磨けば
シングルだ

新年特大号

WEEKLY
GOLF DIGEST

1/22
2019 No.3
特別
定価 460yen

ゴルフ

ダイジェスト

Jan. 2019 Volume 54
Number 3
なぜ、彼らは
コースを荒らすのか
"イノシシ"大研究

藤田寛之は
気がついた

世界の一流は 『右ひざ』が動かないッ!

何度回っても
味わい深い
「井上誠一」の
メンバーに
なろう



Hina Arakaki



Erika Hara



Sakura Koiwai

冬でも
着ぶくれ
しない
スマート
ゴルファー
ウェアの
工夫

えなり
かずきが
勝みなみ
を直撃!



Minami Katsu



Nasa Hataoka



Rei Matsuda

崩御から
30年
昭和天皇の
ゴルフング

ビジネス、出会い、新たな発見…
「青年たちよ、今すぐ
ゴルフを始めよう!」

〈特別付録〉
2018下半期
ヒット商品
BEST25
売れたものには
ワケがある!

週刊ゴルフダイジェスト 3 1月22日号
昭和41年2月12日第3種郵便物認可
平成31年1月22日発行 1月7日発売
昭和41年2月12日第3種郵便物認可
平成31年1月22日発行 1月7日発売
編集人 笠原 誠
発行人 木村 玄一
発行ゴルフダイジェスト社
本社 東京都港区新橋6丁目18番5号
電話 03-3443-2441
03-3443-1306
03-3443-6011
支社 大阪府北区梅田1丁目11番4号
電話 06-6349-5555
特別定価 460円
本体 426円



BMW M recommends Shell V-Power

走りの違いを、あなたにも。

実感するハイオク
Shell
V-Power

雑誌コード 22754-1/22



4910227540196
00426